

## 調査研究報告書の要約

分類・テーマ別		分類・業種別			
書名	機械安全の実現のための促進方策に関する調査研究報告書（I） ー機械安全を設備安全に展開するための課題と方策に関する調査検討ー				
発行機関名	社団法人 日本機械工業連合会				
発行年	2011年3月	頁数	40頁	識別	

### [目次]

#### 本論

- 1 調査研究の目的
- 2 検討部会の開催
- 3 前年度検討項目の確認
  - 3.1 平成21年度検討部会で明らかになった課題の整理
  - 3.2 平成21年度検討部会で示された方向性
- 4 今年度論点の整理
- 5 機械安全をベースに設備安全に展開する役割の検討
  - 5.1 検討部会の議論における指摘事項
  - 5.2 検討部会における議論の整理
- 6 生産システムの安全性確保に必要な要素
  - 6.1 インテグレータの役割
  - 6.2 リスクアセスメントにおけるタスクの定義
  - 6.3 ドキュメンテーション
- 7 今後の検討課題

### [要約]

我が国の機械産業の根幹を支える大規模な生産設備では、多数の機械がラインとして連結され、プラントとして稼動している。労働安全衛生法の指針として制定されている「機械の包括的な安全基準に関する指針」は、機械安全の国際規格である ISO 12100 の考えをベースに策定されているが、ISO 12100 は EU 機械指令の整合規格である EN 規格をベースとしていることもあり、多数の機械が連結されて機能する統合生産システムに適用するには十分は言えない面がある。

本事業は、我が国の産業界において、国政規格にも整合する統合生産システムの中で機械安全を設備安全に展開していくために、現状における問題点の洗い出し課題を整理し、今後の方向性を明確にしていくことを目的とした調査研究である。

平成 21 年度に導き出した一つの方向としてインテグレータに焦点をあて、現状の役割の把握に努めると共に、安全を担保するために必要な知識や機能等を明確化すべき議論を重ねた。インテグレータには機械メーカーの部門、機械ユーザの部門、独立したエンジニアリング企業など幾つかの形態として点在しており、全体的に見て効率的に機能を発揮しきれていない実情がある。それらのインテグレータをセーフティシステムインテグレータとして、その機能をより効率的に利用出来る企業の職場環境が必要と考えられる。

インテグレーション機能が十分認識されていない現状において、インテグレーション機能の普及と定着がキーとなることを見出し、その活動が今後の検討課題であると明確にすることができた。